

～温かいご支援に感謝いたします～

富山県オペラ協会

リードケミカル株式会社
山元醸造株式会社

大沢内科クリニック
米原商事株式会社

網谷ヒデ子	安念 邦夫	石間 照子	稲垣 忠一	稲見之羽子
井上五三男	岩城 静子	大沢 すみ	大成 勝代	岡部 昇栄
可西 晴香	重松 秀子	加藤 徹	加藤與志子	金森 敏子
串田 淑子	小泉 博	古賀 盛大	島崎 清孝	進士 京子
関野 節子	高松 眞	西野 正彬	濱四津董子	林 攻
平井 和輝	平井きよみ	平井 岑生	藤原 節子	舟本 幸人
松本 喜二	本木 英子	桃野 瑞恵	山辺 美嗣	山本 郁夫
柚木喜久子	吉田 泉	利田みさき		

(五十音順・敬称略)

〈とやま世界こども舞台芸術祭2012〉

テーマ 私たちが未来をきずく。 We build the future.
サブテーマ 和・合・美 HUB:Harmony, Unity, Beauty

日程 2012年(平成24年)7月31日(火)～8月5日(日) スペシャル公演:8月6日(月)
会場 富山県民会館、富山県高岡文化ホール、富山県教育文化会館、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)、
富山市民芸術創造センター 他

〈協賛金のお願い〉

とやま世界こども舞台芸術祭2012の協賛金を募集しています。

今回は新たに、東日本大震災で親を亡くした子どもたちを招待し、世界の仲間達との交流を通して、明るい笑顔を増やしていくためのお役に立ちたいと考えています。

何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※ご協力いただきました方々のご芳名は、舞台芸術祭終了後に編集します「記録誌」に掲載させていただきます。

■募集目標額 30,000,000円
個人 1口 5,000円(何口でも)
法人 1口 100,000円(何口でも)

■募集期間 平成24年7月30日まで

■振込先
・北陸銀行県庁内支店(普) 5023940 とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会
・富山信用金庫奥田支店(普) 0413180 とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会
・ゆうちょ銀行 郵便振替00770-1-75873 とやま世界こども舞台芸術祭

編集・発行 とやま舞台芸術祭実行委員会
〒930-0096 富山市舟橋北町7-1 富山県教育文化会館内 (社)富山県芸術文化協会
TEL 076-441-8635(内線123) FAX 076-442-4635 E-mail info@tiatf.or.jp URL http://www.tiatf.or.jp
印刷・製本 (社)山田写真製版所



Le Nozze di Figaro

とやま舞台芸術祭
2011
総合プロデューサー
小泉 博

2011年10月9日(日)午後2時開演

富山県民会館

の フイガロ 結婚

富山県オペラ協会
第一回オペラ公演

安念千重子プロデュース

指揮*坂本和彦

演出*恵川智美

管弦楽*富山シティフィルハーモニー管弦楽団

主催*とやま舞台芸術祭実行委員会
共催*(社)富山県芸術文化協会、富山県、(財)富山県文化振興財団
富山市、(財)富山市民文化事業団、南砺市、北日本新聞社
後援*富山県舞協、富山県オーケストラ連盟、富山県舞台技術研究会
富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ
富山県ケーブルテレビ協議会、とやまソフトセンター



祝 辞

富山県知事 石井 隆一

このたび、「とやま舞台芸術祭2011」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

「とやま舞台芸術祭」では、これまで、優れた舞台芸術の創造と交流をめざして、県内芸術文化団体等による数多くの素晴らしい舞台が繰り広げられてきました。

今年度は、9月に、「モダンダンス・ガラ・イン利賀2011」が開催され、ご来場の皆様に大きな感動を与えたところです。

そして、本日のオペラ「フィガロの結婚」をはじめ、来年2月には、「WE ARE FRIENDS!」と題したダンスファンタジーの公演が行われます。

本日の公演は、昨年度設立された「富山県オペラ協会」の皆様による初のオペラ公演であると伺っています。

オペラは、音楽に演劇や絵画の要素も加わり、歌唱、演奏、舞台美術、照明などが一体となって、一つの舞台を創りあげる総合芸術と言われています。県内芸術文化活動の拠点となっている「富山県民会館」を舞台に、県内舞台芸術家の皆様がプロデュースされる本公演は、先の公演同様、必ずやご来場の皆様方を魅了し、深い感銘を与えるものと確信しています。

終わりに、開催に尽力されました社団法人富山県芸術文化協会をはじめ関係の皆様深く敬意を表しますとともに、本公演のご盛況と国内外からご参加いただきました皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。



蠱惑的なメロディー

(社)富山県芸術文化協会会長 小泉 博

北陸の地で初めて設立された富山県オペラ協会が、この度、安念千重子会長を中心に総力を結集して第1回の記念すべき公演が行われますことは、誠に嬉しい限りです。

元来、悲劇が主流のオペラ作品のなかで「フィガロの結婚」は、数少ない喜劇オペラの傑作として多く上演されております。「フィガロ…」は、ボーマルシェ（仏・1732～1799）の書いた、当時の貴族を痛烈に批判した戯曲が元になって、イタリアでオペラ台本がつくれ、モーツァルトによって作曲されたことは、つとに知られています。

富山県でも浅岡節夫先生の統いる丘声会などで度たび上演されており、オペラファンならずとも「フィガロ…」の舞台を観た方が多いと思います。私は幸運なことにバリ、ブラハ、シドニーで幾度か鑑賞する機会に恵まれました。言葉の壁を越えて笑い楽しんだことがなつかしく思い出されます。

この作品は、男女の関係が複雑に絡み、筋立てがいささかややこしいが、元となるのは、伯爵が家来（フィガロ）が娶う美しい女性（スザンナ）に横恋慕したこと、自らが廃止した筈の初夜権、の復権を画策することから起きる恋の戯れが筋立てで、この初夜権、のことを理解していないと面白さ半減です。

淑女の神経を逆撫でるような官能的に戯れあう荒唐無稽な「フィガロ…」が、名作オペラとしてもはやされているのは、やはりモーツァルトの美しくかつ変幻自在のメロディーが、あまりにも蠱惑的だからでしょう。

日本オペラ界にこの人ありと知られた恵川智美先生（演出）や坂本和彦先生（指揮）をお招きし、県内外で活躍の富山が誇る声楽家の皆さん、更には富山シティフィルハーモニー管弦楽団の精鋭の演奏によって、どんなに素敵で楽しいオペラ「フィガロ…」が公演されるか、わくわくして開幕を待っています。

（総合プロデューサー）



御 礼

富山県オペラ協会名誉会長 浅岡 節夫

今回のオペラ公演に関し、色々ご協力を賜った各機関に深くお礼を申し上げますと共に今日ご来場のオペラを愛する方々にお礼を申し上げます。

さて私が「フィガロの結婚」を初めて見たのは昭和28年のことで、何と歌舞伎座でした。後日分かったことはこれが日本における初演であり会場には進駐軍も多くお祭りのようであった。爾来自らもやり、内外の色々なフィガロを見ることとなったが、日本語・イタリア語・ドイツ語のものもあり、演出も各回いささかの違いはあったものの、基本的には似ていて共感の持てるものが多かった。ただ一つ現代的演出のものを見たが、舞台装置だけが大きく変わり、出演者の演技も冷たく私には実につまらなく感じた。今回、富山での公演は日本語であるが、演出家の言葉に関する詮索は徹底してその成果が期待出来る。無論指揮者の音楽性など総合的に立派で、出演の各人はそれぞれの持ち味を生かしたすばらしい作品が期待出来る。この後のオペラ活動への高まりのために、今年のバイロイト音楽祭のあり方が参考になるのではなからうか。それは今年はローエングリンだったが、現代的演出だったのに分かり易く、会場は大受けだったこと。又、オペラ独特の敷居の高さを排除するために、又、会場に入り切れなかった人のために別会場でのテレビ鑑賞に海水浴場まがいの長椅子がセットされたり、子供のために簡略なオペラでワグナーを鑑賞させる等である。我々も是非参考にして行きたいところです。



記念すべきオペラ公演

富山県オペラ協会会長 安念千重子

皆様、本日は富山県オペラ協会 第1回オペラ公演モーツァルト「フィガロの結婚」にご来場いただき誠に有難うございます。昨年発足したばかりの当協会は、本年年明けの「ニューイヤー・オペラガラコンサート」を皮切りに、活動を開始いたしました。記念すべき第1回目のオペラ公演の演目を「フィガロの結婚」と定め9か月におよぶ練習期間を経て本日の舞台となりました。これは偏に指揮・坂本和彦 演出・恵川智美 両氏の温かくも厳しい長期間の訓練の賜物と感謝しております。と同時に、通常では考えられない程の練習期間をよい舞台を創る目的のため、出演者も初心に戻り、忍耐と努力を重ねてまいりましたことは、私の立場にとりまして大変嬉しく頭の下がる思いでした。キャストの皆様、合唱の皆様に胸一杯の感謝の念を捧げます。通常は夫々の生業のもと、社会人として活躍なさっている皆様「フィガロの結婚」の公演、という目標に向かい志を一つに稽古を続けた期間は、今後の私達の未来、ひいては富山県芸術文化の向上に役立つ大切な土壌となることと信じております。3月の大震災で被災されたり、犠牲になられた方々に思いを馳せる時、オペラと言うとてつもない大きな夢と理想に向かい、歩み続けることの出来る幸せを感じながら、スタッフ・キャスト心を一つに、この舞台に情熱を注ぐ所存でございます。本日の公演に至るまでに賜りました、関係各位の温かいご支援に心より御礼申し上げます。

（プロデューサー）

フィガロの結婚

フィガロの結婚 — バカバカしい一日 — あらすじ

プロデュース 安念千重子

指揮 * 坂本和彦

演出 * 恵川智美

管弦楽 * 富山シティフィルハーモニー管弦楽団

チェンバロ * 金森敏子 (コレペティ)

舞台監督 * 渡邊真二郎 (ザ・スタッフ)

照明 * 山口 暁

衣裳 * 増田恵美

《合唱》

富山県オペラ協会合唱団

合唱指揮 * 宮丸 勝

練習監修 * 浅岡節夫

練習指導 * 加藤與志子

練習指導 * 串田淑子

作曲 * W. A. モーツァルト

日本語訳詞 * 中山悌一

《キャスト》

伯爵 * 黒崎隆憲

伯爵夫人 * 平井香織

スザンナ * 河内麻美

フィガロ * 小林大祐

ケルビーノ * 安念奈津

マルチェリーナ * 串田淑子

バルトロ * 内山太一

バジリオ * 伊東康孝

クルツィオ * 伊東康孝

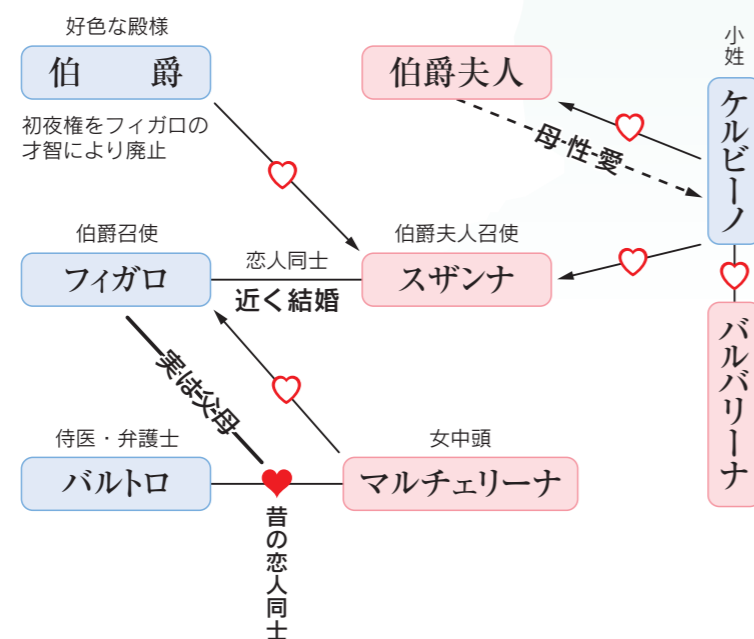
バルバリーナ * 石田絹恵

アントニオ * 松山いくお

花娘 * 中島恵理

山本千鶴

《相関図》



たった一日のお話です。伯爵の召使フィガロと伯爵夫人の侍女スザンナの結婚式の日を巡り、スザンナを愛人にしたい伯爵と歳がいもなくフィガロと結婚したいマルチェリーナが結婚阻止の邪魔をしに悪智恵を働かせ、フィガロとスザンナは夫の愛を取り戻したい伯爵夫人と共に彼らに立ち向かいます。そこにトラブルメーカーながら憎めない小姓のケルビーノやフィガロに怨みを持つ侍医・弁護士バルトロ、処世術の上手いバジリオや酒飲みの庭師アントニオ、その娘でおしゃまなバルバリーナ、間抜けな裁判官クルツィオなどが入り乱れての大騒動になり、副題通り「バカバカしい一日」が繰り広げられます。

1幕、早朝、伯爵の邸の一室。結婚式につける手製の帽子の試着をしているスザンナと寝台が部屋に入るか測量中のフィガロは、伯爵がスザンナと浮気し易いようにこの部屋をくれた事に気付き、阻止すべく頭を働かせます。一方、借金の形にフィガロとの結婚を企むマルチェリーナがバルトロに裁判の弁護を頼みます。スザンナがマルチェリーナを追い払った所に悪戯が過ぎて伯爵に追い出されそうになった小姓のケルビーノが、夫人の取りなしをスザンナに頼みに来ます。そこへ、自らスザンナを口説きに伯爵が現れたので慌てて隠れるケルビーノ。続いてバジリオが伯爵を探しにくるので、仕事ぶりを見てやろうと伯爵も隠れますが、彼のお喋りが過ぎて怒った伯爵が…。小姓も見つかりスザンナと小姓の仲を伯爵が疑いますが、フィガロが邸中の使用人を連れて押し掛け、伯爵がスザンナとの浮気の為に復活しようとしていた初夜権の廃止のお礼を述べます。伯爵はどうにかその場を乗り切りますが、小姓には士官として戦場に行くよう言いつけます。

伯爵夫人の部屋が**2幕**です。昼近く、夫に飽きられたと嘆く夫人にフィガロが計略を持ちかけます。そのため小姓に娘の衣裳を着せている所に、フィガロの偽手紙を信じ、怒った伯爵がやって来ます。夫人が愛人と密会していると思った伯爵が小姓の隠れた衣裳部屋を壊そうと道具を取りに行っている間に、小姓を逃がしたスザンナが衣裳部屋から現れたので、形勢逆転。伯爵は夫人に謝る羽目に。フィガロが結婚式の準備が出来たと呼びに来ますが、伯爵は偽手紙はお前の仕業か、と詰め寄ります。白を切るフィガロ。そこへアントニオが2階から飛び降りた男が植木鉢を壊したと直訴に来ます。飛び降りて逃げたケルビーノの事を知らされ、飛び降りたのは俺だとフィガロが言い抜けたと思ったら今度はマルチェリーナがバルトロ、バジリオを従えて結婚訴訟を訴え、再び形勢は不利に！ **(休憩)**

3幕、大広間、午後。一連の事件を把握出来ずに悩む伯爵の前にスザンナが現れ、持参金を貰う代りに密会を承諾します。実は夫人の策略ですが、小躍りする伯爵。ところがスザンナの不用意な一言で再び疑心暗鬼に陥る伯爵。裁判が始まり、窮地に立たされたフィガロの大嘘からとんでもない真実が！マルチェリーナがフィガロの実の母で、バルトロが父だと言うのです。昨日の敵は今日の友ならぬ親。スザンナと夫人は伯爵を嵌めるべくフィガロにも内緒で手紙を伯爵に書き、ケルビーノはバルバリーナに匿われ、娘の恰好をして村娘達と夫人の所へ。それをアントニオに見破られ、伯爵に処罰されるのをバルバリーナが伯爵のキスの見返りに小姓を下さいと申し出て…面目を失う伯爵、娘の不行跡に怒るアントニオ。フィガロが一同を呼びに来て、セレモニーが始まります。式の中でスザンナからそつと手紙を渡され、伯爵にも笑顔が戻ります。

夕闇の庭園が**4幕**の舞台です。伯爵からスザンナに返すよう預かった、手紙の封代わりのピンを落としたバルバリーナから、スザンナと伯爵の浮気を知ったフィガロは逆上します。家族が出来、母として満たされているマルチェリーナはスザンナを信じてフィガロの様子を伝えます。スザンナが浮気の現場を押さえようと暗闇に潜むフィガロをちょっとからかい、スザンナに成りすました夫人が約束の場所に向かうと、バルバリーナとの約束に向かうケルビーノに遭遇！夫人をスザンナと思い絡む小姓を見て、やって来た伯爵が追い払います。さあ、やっとなたちの計略が動き出します。伯爵は騙されたらどうするのか、女性2人は入れ替わり、男たちを欺けるのか、フィガロはいつ計略に気付くのか…物語も大詰めです。この大騒動は治まるのでしょうか???

Le Nozze di Figaro

『フィガロの結婚』とは何か

演出 恵川 智美

1786年5月1日にウィーンのブルク劇場で初演されたモーツァルトの代表作『フィガロの結婚』は、初演時から大成功を収め、アンコールの嵐で上演時間が2倍になったという。それから今日まで、この作品は世界中で何万回上演されて来たのだろうか。何か国語にも訳され、いくつもの国で上演されるこのオペラの魅力とは一体なんなのだろうか。

原作はボーマルシェというフランスの作家の散文喜劇三部作の2作目で、作家自身が戯曲に書き直し、1784年4月27日にパリのコメディ・フランセーズで上演された。初演はパリ中を興奮の坩堝に巻き込み、劇場の入り口では押しかけた観客に死傷者が出たという。戯曲はすでに3年前に仕上がっていたが、フランス国王ルイ16世の検閲に引っかかり、やっと上演に漕ぎ着けたという曰く付きの舞台だった。直ぐ、王妃マリー・アントワネットの母国ウィーンでの上演も企画されたが、これは王妃の兄のヨーゼフ2世によって中止命令が下された。しかし戯曲は翻訳者名なしのドイツ語台本として市民の間に広がり、モーツァルトも手に入れており、彼自身がオペラにする事を望み、台本作家のダ・ポンテに依頼した。当然、上演許可が危ぶまれたが一計を案じたダ・ポンテは乗り気でない皇帝に「私はオペラを書くので喜劇を書くつもりではなく多くの場面をカットし、省略しなければならず、特に宮廷の品位を傷つけるものは全て省きました。音楽については、私が判断する限り非常に美しい物です」と述べ、許可を貰った。王立劇場に作品が不足していた事も幸いした。

戯曲一つに何故こんな騒ぎを、と思われる方も多いただろう。その理由は、オペラの上演された3年後、1789年7月に起きたフランス革命（以後、仏革命）である。今はフランス国歌となっているラ・マルセイエーズが革命歌として市民の間で歌われ、以後19世紀末までヨーロッパ全土を揺るがし西洋現代社会の基盤となる大革命である。国や社会に対する全ての価値観がひっくり返り、明治維新の比ではなく、中国革命の規模を持つが影響力は全ヨーロッパに及んだ革命。つまり貴族以外は人間の権利が認められなかった時代の終焉を、この戯曲は告げたのだった。貴族政治の不正、貴族階級の墮落、裁判制度への辛辣な批判など旧体制を告発し、庶民の自由で健全な精神を謳歌したこの風刺喜劇は新時代の到来を告げ、平民を権利獲得へと奮い立たせたのだった。

私達日本人は、この作品についていつもこの側面を見落としがちである。仏革命の重要性も学校では教えてくれない。言わば歴史の一コマとしてのオペラの楽しみ方を知らないのだ。これは勿体ない！

モーツァルトは30歳を迎え、イタリア・オペラを作曲しようと100以上の作品に目を通したが満足出来ず、この戯曲に出会った。父子二代に渡るヨーロッパ各地の宮廷での安定したポストの就職に失敗し、天才音楽家という名声も身分制度の前では役に立たない事を思い知りながら、生活の安定の為にそのポストを求め続けたモーツァルト。音楽家は時代の流れと共に、職人から芸術家に変わろうとしており、その才能でモーツァルトは身分でなく収入を得ていたが、才能による収入は何時の時代も不安定なものだ。オペラは大成功したが、相変わらずモーツァルトは就職出来ない。一説には、齒に衣着せぬ用心で辛辣な冗談や発言が宮廷に敵を作った為と言われていた。宮廷音楽家のサリエリとの確執を扱った『アマデウス』という映画や舞台をご記憶の方も多いと思う。

モーツァルトがこの作品をオペラ化したかったのは何故だろう。ダ・ポンテの見事な手腕もあり、階級対立という主題は弱まり、代りにもっと多くのものが炙り出された。男と女、新世代と旧世代、他にも実に様々な対立が描かれ、人間の性が否応なく浮き彫りとなる。モーツァルトは歴史の一コマの先に、人間の本質を見抜いたのだろうか。登場人物の状態は音楽に導かれて目紛しく変化する。勝者は敗者に、絶望は希望に、嘲笑は愛情に。どのナンバーも同じ主題を奏で続ける事はなく、始めと終りでは歌い手の状況も感情も変化し進行し続ける。辛辣で膨大な言葉が音楽によって見事に整理され、いくつもの感情表現の可能性を示唆する。それはイタリア語の曖昧なニュアンスの面白さを逆手に取り、自由に動き回る。冒頭で各国語に翻訳されたと言ったが、実は上記した理由により訳詞はとても難しい作品なのである。ドイツ語の訳で上演されると、言葉の意味が一つに限られ、音楽の自由さを欠く場合があるぐらいなのだ。だから、一音一音節の日本語訳は至難である。言葉やニュアンスの多さに日本語の表現がついていけないのだ。ダイレクトに観客に作品を楽しんで貰う為に日本語上演なのだろうと私は考えるが、歌い手には言葉そのものの意味の他に、原語の意味を持つような歌の表現をお願いした。それが余りに多いので、どこまで熟し伝えられるか不安ではあるが、願わくばその片鱗でも観客の方々が感じて頂ければ幸いである。

モーツァルトは難しいとよく言われる。殆どの音大生が必ず勉強させられるのにだ。思わず口ずさみたくなるメロディも多く親しみ易いが、気が抜けず、弱音に強い感情が込められ、音楽と手を取り合うように歌わないと全体の調和が崩れてしまう。それでいて、一人一人がその役割を果たさないと何も伝わらない。まるで私達人間社会そのものではないだろうか。副題に「バカバカしい一日」とあるが、たった一日の騒動に人の営みの全てがある。だから表現する事が難しい。やってもやっても終わらない。そして、世界中で上演され、これからも続けられるのだ。『フィガロの結婚』というのは、そう言うオペラである。

フィガロの結婚

《指揮》 坂本 和彦



東京音楽大学指揮科卒業。三石精一氏に師事。チューリッヒ音楽院へ留学。F. ライトナー、F. エーゲルマン両氏に師事。チューリッヒ歌劇場にて研究員から副指揮を四年半。

1986年『三人の女達の物語』でデビュー。以後各団体で活躍。2009年東京芸術劇場でオペラ『ひかりのゆりかご』の指揮・音楽監督を務める。また、同年日本フィルにてヴェルディ『レクイエム』を指揮し、絶賛を得る。(新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団等を指揮。) 2009年11月12日、天皇陛下御在位20年、御成婚50年の慶祝行事にて奉祝曲を指揮。

現在、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師、東京音楽大学・大学院、同付属高校講師、日本オペラ振興会会員指揮者、日本指揮者協会幹事、岐阜県サラマンカホール音楽監督。



《演出》 恵川 智美

68/71黒色テント(現黒テント)での演劇活動をへて、活動の中心をオペラへ移す。文化庁在外研修員として95年より渡伊。『椿姫』『蝶々夫人』等スタンダード作品から、『ザザ』『花言葉』等の日本初演、ドニゼッティ等の小作品まで幅広く手懸ける。2006年新国立劇場委託作品『愛怨』を演出。明快な解釈と観客に受け入れ易い今日的舞台づくりに定評がある。武蔵野音楽大学、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部、二期会オペラスタジオ講師。

実験的なオペラプロデュースグループ「labo opera絨毯座」代表。第2回公演『偽のアルレッキーノ/カンパネッロ』で、サントリー音楽財団(現サントリー芸術財団)第8回佐治敬三賞受賞。

《出演者のプロフィール》

《伯爵》黒崎 隆憲



国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。井上貞一、敦子、浅岡光代各氏に師事。これまでに、ベートーヴェンの『第九』『合唱幻想曲』、モーツァルトの『レクイエム』『戴冠ミサ』、コダーイの『テ・デウム』、バッハの『カンタータ』、ヘンデルの『メサイア』、オルフの『カルミナ・ブラーナ』等のソリストを務める。

オペラでは、ハイドンの『月の世界』、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『魔笛』、『コシ・ファン・トゥッテ』、『ドン・ジョヴァンニ』、メンツィの『アマールと夜の訪問者』、フンパーディンクの『ヘンゼルとグレーテル』、プッチーニの『蝶々夫人』、『ジャンニ・スキッキ』、『ラ・ボエーム』、林光の『あまんじゃくとうりこひめ』、第1回富山市民オペラ『手古奈』等に出演。現在、富山県立呉羽高等学校教諭、富山県声楽家協会会員、富山県オーケストラ連盟常任理事、富山県オペラ協会理事。

《スザンナ》河内 麻美



新潟大学教育学部教員養成課程特別教科(音楽)卒業。声楽を箕輪久夫、浅岡光代、佐藤麻子の各氏に師事。丘声会オペラ『月の世界』フラミーニア役、『あまんじゃくとうりこひめ』うりこひめ役などを務める。第3回北陸新人登竜門コンサートのオーディションに合格し、2004年にアンサンブル金沢と共演。現在富山シティエフエムのパーソナリティ。



《伯爵夫人》平井 香織

国立音楽大学卒業、同大学院リト科修了。二期会オペラスタジオ34期修了。東京室内歌劇場公演『奥様女中』セルビーナでオペラデビュー。以降『ハムレット』オフェーリア、『魔笛』夜の女王、『ランメルモールのルチア』『ラクム』表題役、『カルメル会修道女の対話』ブランシュ、『夕鶴』つう等に出演。近年では新国立劇場での活躍が顕著で2002年『ワルキューレ』に出演以降、『ラインの黄金』『神々の黄昏』『エレクトラ』『カルメン』『こもりり』『影のない女』等に出演。コンサートにおいても『レクイエム』『グローリア』『メサイア』『第九』『ミサ・ソレムニス』等数多くの宗教曲のソリストとしても活躍している。その他、小澤征爾指揮『ファウストの劫罰』、大野和士指揮『ヌシュ・ヌシ』準メルクル指揮『ヴィーナスとアドニス』シャルル・テウトワ指揮『エレクトラ』等、著名指揮者や主要オーケストラとの共演も多く、着実に実績を積み重ねている。二期会会員。二期会オペラ研究所講師。国立音楽大学非常勤講師。



《フィガロ》小林 大祐

東京芸術大学声楽科首席卒業。同大学院修士課程オペラ専攻修了。これまでに黒崎隆憲、高橋大海、伊原直子、直野資の各氏に師事。オペラでは『ドン・バスカアーレ』『リゴレット』『シモン・ボッカネグラ』『ファルスタッフ』『ジャンニ・スキッキ』等のタイトルロールをはじめ、『フィガロの結婚』フィガロ、伯爵、『コシ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、ドン・アルフォンソ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『椿姫』ジェルモン、『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、『カルメン』エスカミーリオ、『こもりり』アイゼンシュタイン等を演ずるほか、ベートーヴェン『第九』、オルフ『カルミナ・ブラーナ』等のソリストをつとめる。第14回コンセル・マロニ声楽部門第一位。

《ケルビーノ》安念 奈津



武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。在学中、福井直秋記念奨学金(第1、2種)受賞。二期会オペラスタジオ40期研究生修了後、渡独。州立ハイデルベルク・マンハイム音楽大学大学院を修了。帰国後、東京と富山に於いてソロ・リサイタルを開催し好評を得る。

ズームアップ富山新進演奏家のタベ、横浜美術館クラシックライブ、大倉山水曜コンサート、かながわホールアンコンサート等に出演。首都オペラ公演『ホフマン物語』ニクラウス/ミューズ役でオペラデビュー。『カルメン』(メルセデス)、『魔弾の射手』(介添娘)、『ファウスト』(マルテ)、『ジャンニ・スキッキ』(ラ・チエスカ)、『修道女アンジェリカ』(修女長)、『フランチェスカ・ダ・リミニ』(アドネッラ)等に出演。声楽を山岸靖、近藤政伸、田中奈美子、K・ダウ、C・クンツの各氏に、リト解釈をU・アイゼンローア氏に師事。富山県オペラ協会会員、横浜音楽文化協会会員、二期会会員。

《パルトロ》内山 太一



武蔵野音楽大学声楽科卒業。ミュンヘン国立音楽大学卒業。シューベルトの三大歌曲集『冬の旅』等、ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公演のオペラや、メサイア、ベートーベン第九など、数多くのコンサートに出演。1993年再度一年間ドイツに留学。合唱団「おおやま」、入善混声合唱団、上市町子供の城児童合唱団、男性合唱団「ジョイフル・フレンズ」

黒部第九を歌う会、大地の会女声合唱団等の指導。声楽研究グループ大地の会主宰。元武蔵野音楽大学声楽科講師、元洗足学園音楽短期大学声楽家講師。富山県オペラ協会理事・事務局長。富山県上市町にて内山音楽教室を主宰。

《バルバリーナ》石田 絹恵



富山県立呉羽高等学校音楽コース卒業。国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。浅岡光代、岩崎由紀子の各氏に師事。富山県内を中心に、イベント、各福祉施設での演奏活動をはじめ、幼稚園、小学校、高等学校など訪問演奏も行う。これまでに『丘声会ガラコンサート』『国立音楽大学同例会』『モーツァルト生誕記念コンサート』など様々なコンサートに出演しながら、学生を中心に個人、合唱のヴォイストレーナーとして指導している。

現在、ソロ活動の他、同級生グループ『ココピーヌ』その他『リュイール』『ヴォーカルアンサンブル レガロ』『コロアンジェリカ』のメンバーとして幅広く活動中。丘声会会員。

《花 娘》中島 恵理



石川県羽咋市在住。石川県立羽咋高等学校卒業。洗足学園音楽短期大学音楽科声楽専攻演奏コース卒業。同短期大学研究科修了。在学中、定期演奏会、卒業演奏会、研究科修了演奏会に出演。『金沢市・市民文化祭第12回声楽コンクール』にて優秀賞受賞。2007年、イタリア・ミラノにて、カーティア・ロロバ氏の特別レッスンを受ける。2010年、詩音の会主催『魔笛』に「夜の女王役」で出演。他、多数の演奏会に出演し、石川県・富山県を中心に、精力的に演奏活動を行っている。

声楽を串田淑子、荘智恵の各氏に師事。

《マルチェリーナ》串田 淑子



国立音楽大学声楽科卒業・同大学院ドイツリートコースを首席にて修了。文化庁オペラ研修所修了。1986年に石川に転居、コンサート活動を続ける。その後、二期会、藤原歌劇団、日生劇場主催のオペラに出演。二期会オペラには『イル・トロヴァトーレ』のアズチーナ役、文化庁オペラ研修所20周年記念公演『アルバート・ヘリング』のヘリング夫人役、『魔笛』の侍女Ⅲ役で出演。新国立劇場にて日本初演の原語上演『ヘンゼルとグレーテル』の魔女役で出演し、演技力、歌唱力共に高い評価を得る。同役を愛知県立劇場でも歌う。また、三部作より『修道女アンジェリカ』の公爵夫人役、『仮面舞踏会』のウルリカ役、『カヴァレリア・ルスティカーナ』のサトウツア役他、メゾ・ソプラノの大役を好演。いずれも高い評価を得ている。幅広い音域と安定した表現力には定評があり、東京交響楽団をはじめ、オーケストラアンサンブル金沢、東京フィルハーモニー管弦楽団等数多くのオーケストラと共演。ベートーヴェン『第九』やヘンデル『メサイア』、モーツァルト『レクイエム』、『戴冠ミサ』、バッハ『口短調ミサ』等ソリストとしても活躍。また、金沢、富山にてリサイタルを開催。

現在、二期会会員。富山県立呉羽高等学校講師。富山福祉短期大学講師。富山県オペラ協会副会長。詩音の会主宰。

《バジリオ/クルツィオ》伊東 康孝



武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。藤田昌克、北村雅彦、田口道子の各氏に師事。これまでオペラ公演のソリストとして富山市民オペラ『手古奈』『お小夜』、富山県高岡文化ホール主催『フィガロの結婚』、新川文化ホール主催『ジャンニ・スキッキ』、(財)富山市民文化事業団主催『チョン・ミヨン』指揮オペラ『ラ・ボエーム』等に出演する。また、ベートーヴェン『第九』、オルフ『カルミナ・ブラーナ』等のテノール・ソロとして演奏会に多数出演するなど、精力的に演奏活動を展開している。2010年5月には北村雅彦氏らとジョイントリサイタルを開催し、好評を博した。富山県声楽家協会会員。富山県オペラ協会事務局長。現在、富山県立富山北部高等学校教諭。

《アントニオ》松山 いくお



新潟県糸魚川市生まれ。新潟県立糸魚川高等学校卒業。昭和音楽短期大学声楽科卒業。東京声専音楽学校オペラ研究科修了。1993年に国際ロータリー財団の奨学生としてイタリアのトリエステに留学。滞在中は研修の傍らサンジュスト寺院の聖歌隊ソリストを務めた。また日本の歌を中心としたコンサート活動の他、トリエステ民謡の邦訳と歌唱などで注目を集め同市のTVやラジオ番組にも出演しトリエステ市民にも好評を得た。オペラの主なるレパートリーには『ドン・バスカアーレ』のタイトル・ロール、『コズィ・ファン・トゥッテ』のドン・アルフォンソ役、『フィガロの結婚』のフィガロ及びパルトロ、アントニオ役、『ジャンニ・スキッキ』のタイトル・ロール、『奥様女中』ウベルト役、『愛の妙案』のダブルキャラクターなど軽妙な役どころが多い。05年には演劇界デビューも果たしており、歌唱と共に存在感のある役作りにもいつそう磨きがかかっている。現在、昭和音楽大学及び大学院講師。NPO法人ミラマーレ・オペラ代表。

《花 娘》山本 千鶴



富山県砺波市出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。声楽を藤沼昭彦、松本明子、森山京子、細見涼子の各氏に師事。2005年『フィガロの結婚』に花娘で出演、2006年財団法人日本オペラ振興会主催『フレッシュコンサート2006』出演。2008年日本オペラ団体連盟主催文化庁人材育成事業『修道女アンジェリカ』に修女長で出演。2009年富山県文化振興財団主催、文化庁の舞台芸術の魅力発見事業として谷川賢作氏作曲、覚和歌子氏作詩の交響詩『めざめる羽 はばたく四季』新作初演ソリストを務め、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。2010年3月、LIPresentsOPERA公演プッチーニ『修道女アンジェリカ』に修練長で出演。2010年9月ルーマニア首都ブカレストのアテネ音楽堂での演奏会に出演、George Enescu Filarmonicaと共演。他、各種オペラ、コンサートに出演している。藤原歌劇団準団員。富山県オペラ協会会員。

《合唱》
富山県オペラ協会合唱団



《合唱指揮》
宮丸 勝



《ソプラノ》
谷村 清香



《ソプラノ》
吉田 理恵



《ソプラノ》
杉本 雪子



《アルト》
豊谷 紗帆



《アルト》
村椿 尚美



《アルト》
中野 多賀子



《テノール》
井内 学



《テノール》
富松 祐範



《テノール》
田村 誠千代



《テノール》
東海 廉之



《バリトン》
武内 博康



《バリトン》
大崎 晴生



《バリトン》
小堀 雅行

富山県オペラ協会「維持会員」ご入会のご案内

昨年4月に発足しました当協会は本年1月に「ニューイヤール・オペラガラコンサート」、つづいて、本日、第1回目のオペラ公演「フィガロの結婚」の開催を迎えました。

設立後、2年にも満たない協会ですが未来に向け、富山県の音楽文化の向上と応援下さる多くの県民の方々のご期待に応えるべく、「健全な組織の運営」と「公演の継続」のため「維持会員」を募っております。

<文化で富山を元気に!>に向け、皆様のご理解と、温かいご支援を賜りたく下記要綱にてご賛同いただきたくご入会をお待ちしております。

維持会員 年会費（4月～翌年3月）
個人会員 1口 1万円 法人会員 1口 3万円

- 公演プログラムに「ご芳名・貴社名」を記載させていただきます。
- 公演の良いお席を優先予約させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ 富山県オペラ協会事務局 Tel/Fax 076-473-2572
〒930-0412 富山県上市町広野905-1 内山太一 方

《管弦楽》
富山シティフィルハーモニー管弦楽団



- 1stVn 宮本 範子 (コンサートミストレス) / 田中 緑 / 仲井 美賀 / 名執 純子
又場 龍大 / 渡辺 優子
- 2ndVn 朝木 晴美 / 塩崎 章子 / 辻 久直 / 沼田 典子 / 松下 亮
吉澤 真弓
- Vla 高田 亮二 / 中 秀晃 / 前川 仁志 / 松島真二郎
- Vc 島田 育子 / 新町 栄一 / 堀田 五月 / 松島健一郎
- Cb 長谷 英寿 / 柳橋 禎子
- Fl 伊藤ひでみ / 摺出寺敬子
- Ob 北岡 明 / 保科 浩一
- Cl 大田 昌子 / 佐々木桂治
- Fg 牛嶋 裕 / 篠崎 秀一
- Hn 坂井 禎 / 野崎 美保
- Tp 古井 清紀 / 南 昌樹
- Timp 山口 雅美

《チェンバロ》

金森 敏子 (コレペティ)



武蔵野音楽大学卒。藤原歌劇団、日本オペラ協会を中心にオペラの稽古ピアニスト、コレペティトルとして、また、声楽、器楽、演劇・ミュージカルのアンサンブルピアニストとして活躍。1994年～1996年ハンガリー・テブレツェン市立チョコナイ劇場と契約。オペラ歌手、テブレツェンフィルハーモニーのコンサートマスターとの演奏会等、数多くのハンガリー音楽家と共演。放送出演、教材用レーザーディスクの録音等も多数行う。また、国際コンクール公式ピアニストとしても活躍。1998年～2001年新国立劇場オペラ研究所講師を務める。2005年より富山県芸術文化アドバイザー、現在は、武蔵野音楽大学オペラコースでの指導にあたる。